



高校生以上を対象に 第7回スピーチ大会

第7回八千代市日本語スピーチ大会が2013年11月23日（祝）午前10時30分から八千代台東南公共センターで行われました。参加対象者は市内在住在勤の高校生以上の外国人の方々。日本語を必要としている外国人の皆さんに対し、スピーチを通して日本語のレベルアップを図ってもらおうと、アットホームな雰囲気の中、ユーモラスな楽しいスピーチが出てくるなど、内容の濃いスピーチ大会となりました。

（※2～3ページにも関連記事）

▼周郷紀男会長と秋葉就一市長を囲んで記念写真を撮る協会会長賞を受賞したファム・ティ・ウットさん（ベトナム／東南火曜会所属）



特

集

9か国13人の方が参加し 日本語の勉強の成果を披露

今回の第7回八千代市日本語スピーチ大会では、高校生以上の外国人の方13人が参加しました。発表は5分以内でテーマは自由。皆さん日ごろの勉強の成果を見せようと、豊富な話題を一生懸命語ったり、異文化の体験を話されるなど真剣に取り組んでいました。日本語指導ボランティア部会が行った事業の経緯、取り組み方などについて齋藤をご紹介します。

八千代レオクラブ主催の 日本語スピーチコンテストが切っ掛け

日本語の指導ボランティア活動が最初に始まったのは、1993年（平成5年）の村上の月曜会と火曜会の2教室でした。八千代台駅周辺の日本語指導を求める外国の方々に応じ、八千代台東南公共センターでの火曜教室が1995年に開講し、その後、次々と有志により7教室が立ち上げられ、現在10教室（学習者75人）でボランティア講師53人が活動を展開しています。

1997年に東南火曜会に八千代レオクラブのネパール人会長が見え、「日本語教室の皆さんに是非とも参加してほしい」と八千代レオクラブ主催の「日本語スピーチコンテスト」の案内を持って見えました。このネパール人会長は旧八千代国際大学に留学し、卒業後は八千代台駅前でカレー店と旅行会社を経営していた方で、参加を勧められたスピーチ大会は、勝田台文化センターの3階ホールで開催されました。

美川さんと私は教室の生徒とともに参加し、八千代国際大学の留学生が多くスピーチする中、ロシア人の主婦ティルキナさんが見事3位に入賞を果たしました。私たちは大声を上げて喜び合いました。スピーチの終了後は、同じ会場でカレーパーティーとなり、多くの方々と交流を深めることができました。今でも特大のカレー鍋と舞台の小豆色のどん帳が鮮やかによみがえります。

発表者（敬称略）



まりこ
(タイ)



ジェリファ・ベン
ソン(ジャマイカ)



ディモト・ランガ
ナ・アロックゴダ
(スリランカ)



ダニエラ・アラ
カキ・フォルボ
(ブラジル)



島村メリナ
(フィリピン)



パメラ・トーレス
(ベルー)



楊 暎清
(中国)



グウェン・バン・
ダン(ベトナム)



峰岸グゼリ
(ロシア)



ド・ヴァン・トオ
オン(ベトナム)



ファム・ティ・
ウット(ベトナム)



朱 海浜
(中国)



澤村 純
(中国(帰化))

●八千代市国際交流協会会長賞

ファム・ティ・ウットさん(ベトナム)

（ありがとう日本）

日本はどうか。日本人はどうか。その問題の答えのため、私は大学時代日本に来ることを決めました。日本に来ていろいろなことが勉強になりました。その結果、日本に「ありがとう」と言いたいです。

ありがとう。きれいな国を見たからです。ベトナムと違って、日本は四つの季節がはっきりしていますので、いろいろな花が咲きます。いつでもきれいな花や美しい景色を見られます。春になると公園や道などで桜が咲いてとてもきれいです。夏の代表の花はひまわり。秋になって紅葉を見に行きます。冬はとても寒いですが、雪が大好きです。花のことだけではなく、もっと大切なのは道でゴミが見えないことです。ゴミがない道を歩くと気持ちがいいです。日本人はゴミ箱がなかったら絶対にどこかに捨てません。ゴミを持って行ってどこかにゴミ箱があったらちゃんとゴミ箱に入れます。その



▲発表者の皆さんは少し緊張気味。でも最後まで頑張りました



▲アトラクションにはピアノ演奏

今年度の発表者は 感謝と心あふれるスピーチを展開

その後、レオクラブの会長が代わり主催事業から日本語スピーチ大会もなくなりました。各教室では独自に七夕祭り、忘年会、カラオケパーティー等学習以外にも楽しい行事を工夫していましたが、2006年1月に八千代市国際交流協会の発足を機に各教室が一同に集い、待望の第1回スピーチ大会を八千代台東南公共センター2階で開催することになりました。当時は7教室でスピーチ参加者も8人ほどでしたが、ボランティア同士の交流もでき、教室の横の連携が深まりました。

その後の開催は試行錯誤の連続でしたが、今年は第7回目に当たり、大々的に開催し、八千代市国際交流協会のメインイベントにしようとの心意気で、会場も八千代台東南公共センター5階ホールに決定し、各教室でも熱心にスピーチ指導と練習に力が入りました。

台風26号の影響で10月26日から11月23日に開催日の

上、皆は毎日きちんと掃除して、どこでもきれいです。

ありがとうございます。我慢強いことも教えてくださいました。世界で一番我慢出来る人は日本人です。スーパーやレストランや銀行などでは順番を待たなければなりません。私は東京ディズニーランドへ行った時、切符を買うため3時間ぐらい並びました。最初、私はとてもきれいでしたが、だんだん順番を守ることは、日本の文化の一つだと分かりました。並んでいる時は自分の時間が持てるので、もったいないとは思いませんでした。時間を有効に使えることを覚えました。

ありがとうございます。地震の時団結力のあることが分かりました。品物を買って被災地に送っていました。被災地では品物をもらうのに並んでいました。被災地では今でもボランティアが片付けを手伝っています。

私は来年、ベトナムに帰ることを決めました。それで「ありがとうございます」という言葉だけではなく、現実にベトナムへ帰って、日本で勉強した経験をやりたいと思います。ベトナムを日本の国と同じようにしたいです。そんなことは難しいですが、せめて自分の村を是非やりたいと思います。

変更を余儀なくされましたが、当日は穏やかな晴天の下、家族や友人を伴って9か国13人の発表者が晴れ晴れと集い、見事なスピーチに日本人も忘れかけていた歴史の断面を思い起こしたり、日本人特有の建前と本音の指摘があったり、海外から見た日本の側面も浮き彫りになるなど日本への感謝と心あふれるスピーチが続きました。

後藤国寿さん（高津土曜会代表）の名司会で美川克子さん、増田継子さん、廣野修三さん、新谷啓一さんの4人の審査により、努力賞、優秀賞等が発表された最後に「ありがとう日本」をスピーチしたベトナムのファム・ティ・ウットさんに八千代市国際交流協会会長賞が贈られました。スリランカのディモト・ランガナ・アロックゴゲダさん（村上火曜会所属）の「日本とスリランカの絆」のスピーチと大接戦でした。13人の力のこもった堂々のスピーチは、予定時間を超え客席にも緊張が伝わりました。江川八代江さんの体操指導で体をほぐし、一息入れた後の審査時には千葉県のアラン・ロレンスさんの優雅なピアノ演奏にうっとり聞き入りました。

小林道夫さんによる表彰後の記念撮影を終え、会場はガラリと雰囲気を変え、周郷会長の乾杯の音頭でおにぎりやマフィン等の軽食にブラジルのダニエラさんお手製のミニケーキも加わり、立食パーティーは国際色豊かな交流の輪があちらこちらに広がりました。駆けつけた秋葉市長との記念撮影終了後は、アミーゴこども日本語教室から山口勝信さんの迫力満点の空手の演技、東南土曜会からは松本則夫さんの楽しい手品とギターの弾き語りに会場は沸きに沸きました。

ボランティア講師も学習者も一体となり、この日を目指して頑張った日本語教室の1年間の集大成としての大会でした。会場手配等をしていただいた国際推進室の皆さんには大変お世話になり、また応援に駆け付けてくださった会員を始め、総勢85人の皆様に心より感謝申し上げます。（齋藤貴美子）

アパッチ・ベルズ&バンド 八千代市で姉妹都市公演

タイラー・ジュニア・カレッジからチア・リーダーチーム「アパッチ・ベルズ」とバンドチーム「アパッチ・バンド」のメンバー98名が2013年3月10日（日）八千代市を訪れました。今回は八千代市と米軍横須賀基地・厚木基地でそれぞれ公演を行うため来日したものです。当日は、ラインダンスやバンドの演奏など25の演目を披露し、集まった約1,200人の観客から大きな声援があがりました。また、一緒に披露された八千代高校の鼓組卒業生「KOGMIX」による和太鼓の演奏や村上中学校吹奏楽部の素晴らしい演奏に、アパッチ・ベルズから「この日の公演で2つの驚きがありました。その一つはアメリカの国歌が中学生により演奏されたこと、もう一つは文化の違う和太鼓とベルズ・バンドのコラボが実現できたことです。村上中の生徒たちがアパッチ・ベルズとバンドのために国歌を演奏してくれたことに対して、私たちは涙があふれ止まりませんでした」「演奏は驚くほど素晴らしかった。これだけの演奏ができるのは相当の時間を練習にかけているのだと思います。演奏レベルはとにかく素晴らしい」との感想が寄せられました。（瀬下和正）

▼全員で記念撮影



▲素晴らしい演奏を披露した村上中学校吹奏楽部



▶和太鼓を熱演する八千代高校鼓組卒業生「KOGMIX」

▼見事な演奏をしたアパッチ・バンド



▲65年の歴史を感じるアパッチ・ベルズのダンス

国際姉妹都市交流 20周年記念誌を発行

八千代市国際交流協会では、国際姉妹都市提携20周年を記念して「バラでつなぐ20年」を発行しました。内容は会長の「あいさつ」、市長の「発刊に寄せて」から始まり、「姉妹都市交流20年のあゆみ」「協会を支える4つの部会」「写真で見る姉妹都市交流」「2012年タイラー市訪問を終えて」「これまでのタイラー市への訪問団名簿」で構成されています。A4版28ページ編成でカラー印刷です。（三橋伸一郎）



ALT 6人が参加して 初のハロウィン祭りを開催

ハロウィンとは、欧米の「万聖節」という記念日の前夜祭。秋の収穫を祝い悪霊を追い出すお祭りです。アメリカなどでは、子供たちが思い思いに魔女や妖怪の仮装をして通りを練り歩きお菓子などをおねだりします。この欧米のお祭りを八千代市でも親しんでもらおうと、ALT(外国語指導助手)6人が参加し、2013年10月26日(土)午後3時から福祉センターで開催されました。今回は50組の方々に参加し、子供たちはダンスやゲームで大いに楽しんでいました。(岩井寛)



▲ALTのリードでみんなでダンスを踊りました

▶ゲームを終えるとお菓子がプレゼント

▼お菓子の入った玉を割るゲームをみんなで楽しみました



▼素敵な衣装で頑張りました



▲6人のALTの皆さんと記念撮影

◀「ミイラごっこ」が終わって「はい!ポーズ」



25年度予算 概要は次のとおり

八千代市国際交流協会の平成25年度予算が平成25年4月14日(日)に行われた総会で決まりました。その概要は次のとおりです

■収入

単位:円

科 目	金 額
1. 会費収入	645,000
2. 補助金	1,600,000
3. 繰越金	187,340
4. 雑収入	660
合 計	2,433,000

■支出

単位:円

科 目	金 額	摘 要
1. 事業費 990,000	1. インターショナルデイ 300,000	謝金 150,000 出演者・協力者謝金
		需用費 120,000 本部費・ブース制作費
		役務費 30,000 イベント告知など
	2. 広報事業費 180,000	需用費 130,000 クリッピー印刷費
		委託料 50,000 ホームページ制作委託料
	3. 部会事業費 510,000	部会事業費 510,000 国際姉妹都市部会、語学ボランティア部会、日本語指導ボランティア部会、国際交流促進部会
2. 事務費 1,290,000	1. 事務費 1,290,000	需用費 200,000 事務用品・会議用茶菓代
		役務費 200,000 会議通知・資料送付・電話代等
		備品購入費 50,000
		人件費 770,000 事務職員給与・労災
		研修費 30,000 研修参加費補助
		負担金 10,000 千葉県国際交流センター団体会費
		交際費 30,000
3. 予備費 153,000	1. 予備費 153,000	予備費 153,000
	合 計	2,433,000

初めて開催した 日本語指導ボランティア研修会

長い間の懸案事項であった「日本語指導ボランティアを始めるに当たって」の講座が2013年7月6日(土)に八千代市多文化交流センターで行われました。

日本語10教室での初めての試み「ボランティアとは」を原点から考え、理解していただく講座のバトンを握りスタートさせました。当日は、日本語指導ボランティアの意義について確認しました。今回は思いもかけず、希望者10人と既に大きな輪の中で活躍しているメンバーを加え、約20人が集まり双方緊張した中で始まりました。

まず、八千代市において日本語指導講師として活動するには、(1)八千代市国際交流協会のメンバーになること (2)どの講師も横一列の関係であること (3)既に活動しているグループの和を乱さないこと (4)いつも心がけることは協調性を持ち、講師間の生徒の譲り合

いが出来ること (5)忍耐力を持つこと (6)自己主張を抑え、常に黒子に徹することが出来る。そして担当が決定した時点で責任が伴う自覚を持つこと。

これらが約20年にも及ぶ日本語をボランティアとして教える立場から得た経験です。様々な国の生徒たちと接するに当たり、双方少しでも実りよく前進出来る手段であり、長く続くゆえんであるのではと説明しました。また教えるに当たっては、何かを期待するのではなく、あくまでも無報酬の上に成り立っているということです。(美川克子)

▼皆さん熱心に聞き入っていました



第8回インターナショナルデイ 文化活動を外国人にアピール

2013年9月8日(日)午後1時からフルルガーデン噴水広場で第8回インターナショナルデイが開催されました。秋葉市長のあいさつから始まったイベントは市内の吹奏楽団・八千代フェスティバルバンド43名による演奏へと続きました。最初に「あまちゃん」のテーマ曲が流れると一気に会場が盛り上がりました。次は八千代高校和太鼓部「鼓組」の登場に伴い、威勢のいい太鼓の音が響き渡ると同時に舞台周りには大勢の人が集まってきて、42名の高校生による迫力ある和太鼓のパフォーマンスに見入っていました。関東大会4連覇の実力をいかんなく発揮しました。東京成徳大学ダ

ンスサークルと軽音サークルは、若者好みの演技と演奏になりました。今年は市内で文化活動をしてる3グループが出演し、八千代の文化活動を披露する良い機会になりました。会場内の国際交流協会のブースでは、これまでの活動を写真・パンフレット等で紹介しました。また昨年に引き続き、東あられ本舗さんがお茶とお菓子を無料で提供くださり来場者に大変喜ばれました。「鼓組」の皆さんには積極的に会場設営の手伝いをしていただき、大きな助けになりました。当日は雨が心配されましたが、幸いイベント中に降ることもなく、多くの皆さんに楽しんで頂けたイベントは大成功に終わりました。今後も市内に在住する各国の方々との交流を深めていけるようなイベントにしていきたいと思えます。(関山静)



▲東京成徳大学ダンスサークルの皆さん



▲東京成徳大学軽音サークルの皆さん

◀八千代フェスティバルバンドの皆さん

▼八千代高校和太鼓部「鼓組」の皆さん



名称を変更し新たに開催 夏休みこども日本語教室in八千代

「サバイバル日本語講座・3日間」を7回目となる今年度は、「夏休みこども日本語教室in八千代」として2013年8月23日（金）に八千代市少年自然の家で実施しました。八千代市教育委員会後援によるバス無償提供と施設使用料の免除を得られ、AMIGO教室の生徒を中心に6か国26人が参加しました。自然の家の職員、ボランティア、村上地区の小学校の先生、YLC、八千代警察署、東京成徳大学、千葉県国際交流協会など30人近い人たちの協力を得て、充実した活動となりました。自己紹介ゲームを行った後、6グループに分かれ、案内地図に従って周辺の農道を歩くウォークラリーを行いました。道に迷うグループが多く出て、予定を超え2時間近くかかりましたが、出会う農家の人たちにあいさつしながら、スイカなど農産物の学習、

蛇の抜け殻や蜂に遭遇するなど思わぬ体験をしつつも、チェックポイントのクイズには全問正解して完走しました。AMIGOの高校生も指導に加わって、ボランティアの皆さんとゲームを楽しんだ後、プラネタリウムで八千代市で見える夏の星座の勉強をしました。国籍の違いも関係なく、新しく出来た友だちと一緒に楽しく遊ぶ姿に講座の目的が充足していることを今回も確認できました。（鈴木正俊）

▼楽しく過ごせた素晴らしい一日でした



第13回語学研修旅行 日米開国の舞台・伊豆下田を訪問

今年の語学研修旅行は2013年10月18日～19日の両日、伊豆高原のバス旅行として実施しました。参加者はALT（外国語指導助手）のヘイリーさん、エリカさん、ジェニファーさん、タリサさん（4人はタイラー出身）、アンジェラさん（ロサンゼルス）、アランさん（シカゴ）の6名を含め23人でした。

朝7時に勝田台を出発し、最初に幕末期に日本開国の舞台となった街・伊豆下田を訪問しました。ペリー提督の上陸記念碑を見学した後、日本最初の米国領事館が開設された玉泉寺を訪問し、ALTのメンバーは米国初代ハリス総領事についての話を興味深く聞き

入っていました。この日は伊豆高原で一泊し、ALTによる英語スピーチ会でリスニングの研修を行いました。また、自由時間には小学校の英語教育の討論、多文化共生の話で盛り上がりました。宿での温泉を堪能し、翌日は城ヶ崎海岸を散策し、つり橋と灯台を楽しみました。帰途は横浜中華街を訪問し、海ほたる経由で八千代市に戻りました。お天気に恵まれ、参加者にとって日米関係の歴史を考える有意義な旅であったと思います。（喜田茂）



▲伊豆高原のホテル前で記念撮影

千葉県英語補助教員を迎え 第6回英語語学研修会を開催

語学ボランティア部会による第6回英語語学研修会が2013年11月30日（土）午後2時から八千代市福祉センターで開催されました。講師に千葉県英語補助教員のアラン・ロレンス先生をお招きし、テーマは「英語学習のアドバイス」。グローバル社会を迎え、先生の豊富な教師経験からいかにしたら英語を効率的に学習できるかを具体的な例を含め分かりやすくご講演頂きました。ピアノ演奏、スポーツ、カメラ撮影など多方面に興味をお持ちの先生からは、英語を学習するためにあらゆることに興味を持ち、分からない点は自分で調べ、なおネイティブに聞いてみるのが重要であるとのアドバイスがありました。今回の研修会は秋葉市長を始め部会員22人、一般公募23人で計45人の参加者

がありましたが、大変に興味のある内容で有意義な2時間を過ごすことができました。参加者からは英語を勉強する上でとても貴重な研修会でしたとの意見が多く出されていました。なお先生は米国シカゴの出身で震災直後に来日して3年弱が経過。現在県内の3つの高校を主体に英語の授業を行っていますが、中学校や小学校でも教えることがあるそうです。（河合晴子）

▼興味ある内容で有意義な2時間でした



タイラー市親善訪問団 来年7月11日（金）から来日予定

姉妹都市タイラー市の皆さんが八千代市を訪問します。期間は2014年7月11日（金）から15日（火）までの5日間です。八千代市国際交流協会としては、2013年12月1日（日）に国際姉妹都市部会が受入実行委員会を立ち上げ、受け入れについては万全の体制でお迎えしたいと考えております。2012年にタイラー市を訪問した方々をはじめ、会員の皆さんのご協力を是非お願いしたいと思います。（三橋伸一郎）

▼前回2010年7月のタイラー市からの訪問団



平成25年度篤行者表彰 安福久子氏が受賞

安福さんは、1994年3月の八千代国際姉妹都市委員会設立以来、広報編集委員や姉妹都市委員を務めています。2006年1月に八千代国際姉妹都市委員会を含む国際交流団体により、八千代市国際交流協会が設立されてからも、会員として日本語指導ボランティア部会主催の在住外国人を対象としたサバイバル日本語教室や八千代市日本語スピーチ大会に食事担当として協力するなど国際交流活動の支援を惜まず、協会の発展と国際交流の推進に大きく貢献しました。

また、2012年には、タイラー市への20周年記念訪問団に参加したり、国際姉妹都市交流20周年記念誌編集委員を務めています。このほか、2005年4月から八千代こども国際平和文化基金事業推進懇談会の委員を務めています。（三橋伸一郎）

会員募集中

八千代市国際交流協会では会員を募集中です。詳しくは事務局（047-752-0593）へお問い合わせください。年会費は個人2,000円、家族3,000円、学生1,000円、団体会員10,000円となっています。また、新しい情報はホームページをご覧ください。アドレスは次のとおりです。《<http://www.yia-kokusai2006.com>》

八千代市国際交流協会

検索

八千代へようこそ

市内の中学校では、現在6人の外国語指導助手（ALT）が英語の指導をしています。昨年12月と今年7月に着任した新しい先生にインタビューしました。（通訳／瀬下和正 文／三橋伸一郎）

読み書きに関しては 高いレベルに

ジェニファー・シモンズさん
（アメリカ・タイラー市）



先生になりたかったです。日本の文化に興味があり、アメリカでも外国人の方に教えていました。子供たちには失敗したり間違ってもOKという気持ちで教えています。中学生は勉強する努力をしているし、読み書きに関しては高いレベルにあります。日本料理では「お好み焼き」が大好き。日本語をもっと勉強したいと思っています。

中学生は エネルギーが

タリサ・ジョイ・ホワイトさん
（アメリカ・タイラー市）



教えることが大好きなんです。それに日本に来たかったからです。中学生はエネルギーがすごいですし、恥ずかしがり屋さんと聞いていたがほとんどの子が活発ですね。会話するのも何も問題がありません。家に入るのに靴を脱いだのにはビックリ。サーモンのお寿司やラーメンが好きです。日本のいろんな所を旅行したいです。

編集後記

今年も八千代市国際交流協会の活動は活発でした。タイラー市との姉妹都市20年間の交流記録写真などを掲載した記念誌の発行がありました。3月にはアパッチ・ベルズを受け入れ、イベントを行いました。姉妹都市交流活動が一層盛んになってきています。インターナショナルデーも大盛況で、会場のフルル・噴水広場は上階まで観客が鈴なりでした。市民体育館の観客席が満員になったアパッチ・ベルズのイベント共々、国際交流協会の活動が多くの方の皆さんの目に留まり、理解されてきているように思われます。

市内在住の外国人への日本語指導教室も10教室になりました。職業も様々で、日本語レベルの段階も違う幅広い年齢層の人たちに、毎週熱心に辛抱強く日本語の指導が続けられていることは、正に国際交流活動の実践そのものだと思います。教室で学んだ成果による日本語スピーチ大会は感動的でした。毎年恒例の語学研修会などの事業もあります。多くの市民の皆さんのご入会をお待ちしています。（廣田敬治）